



境界を越えて広がるつながり



高野山大学

90

講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院等)さまへの、本学教員の講師派遣は大学公務として取り扱っております。

- 【講師派遣お申込み手順】
1. 高野山大学公式ホームページの[高野山大学の概要]「講師派遣」から、「講師派遣依頼フォーム」より、必要事項(ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマ等)を記載の上お申込みください。
 2. 講師との調整がとれ次第、依頼主さまへ折り返しご連絡いたします。
※「講師派遣依頼書」を提出していただく場合もあります。

- 【注意事項】
1. 講演料(手取り額)
60分 ¥20,000~
90分 ¥30,000~
※講演料のみを直接講師に手渡ししてください。
 2. 交通費・宿泊費は、本学にて負担します(「高野山大学旅費規程」による)。
 3. 講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件は、講師と直接調整してください。
 4. 大学を経由せずに、直接講師に依頼する場合は、この申し合わせの対象外とします。
※講師派遣依頼のお申込みは、HP掲載の様式をお使いください。



こちらのQRコードからもアクセスできます。>>

寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。これは、現在取り組んでいる、高野山霊宝館との連携や遠隔授業の本格的取組などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

- 頂戴いたしました寄付金は
- 大学の設備・備品費などの諸経費
 - 地域との連携事業の経費
 - 合理的配慮の支援
- などに活用させていただきます。
- 高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、「魅力ある大学づくり」をキーワードにこれからも様々な教育改革に取り組んでまいります。
- 皆様におかれましても、高野山大学への引き続きのご支援をこそよりお願い申し上げます。
- この趣旨に賛同していただける方は、お手数をおかけいたしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746)までご連絡ください。
- ご連絡をいただきました方には、大学から、
- 寄付申込書
 - 寄付金用振替用紙
 - 返信用封筒
- をお送りさせていただきます。なお寄付金は、一口2,000円以上とさせていただきます。
- 皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】
今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用下さい。

2025年度 入学者選抜概要

選抜(入試)日程(密教学科・別科)

※合格発表は本人宛郵送と本学にて掲示(10:00)。

試験種別	出願期間	試験日	合格発表
学校推薦型選抜(併設校・指定校)	令和6年11月1日(金)~11月14日(木)必着	11月23日(土)	12月2日(月)
総合型選抜Ⅰ期(一般・寺院後継者)(書道)	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	10月19日(土)	11月1日(金)
総合型選抜Ⅱ期(一般・寺院後継者)(書道)	令和6年11月7日(木)~11月24日(日)消印有効	12月7日(土)	12月12日(木)
社会人選抜Ⅰ期	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	10月19日(土)	11月1日(金)
編入学選抜Ⅰ期	令和6年11月7日(木)~11月24日(日)消印有効	12月7日(土)	12月12日(木)
社会人編入学選抜Ⅰ期	令和6年11月7日(木)~11月24日(日)消印有効	12月7日(土)	12月12日(木)
留学生選抜Ⅰ期/留学生編入学選抜Ⅰ期	令和6年11月7日(木)~11月24日(日)消印有効	12月7日(土)	12月12日(木)
別科選抜Ⅰ期 密教専修コース	令和6年11月7日(木)~11月24日(日)消印有効	12月7日(土)	12月12日(木)
個別資格審査	令和6年11月1日(金)~11月14日(木)必着	11月23日(土)	12月2日(月)

選抜(入試)日程(教育学科)

※合格発表は本人宛郵送。

試験種別	出願期間	試験日	合格発表
学校推薦型選抜(併設校・指定校・日本語学校指定校)	令和6年11月1日(金)~11月12日(火)必着	11月23日(土)	12月2日(月)
学校推薦型選抜(公募制)	令和6年11月1日(金)~11月12日(火)消印有効	11月23日(土)	12月2日(月)
総合型選抜Ⅰ期	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	10月20日(日)	11月1日(金)
総合型選抜Ⅰ期(OC参加型)	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	-	11月1日(金)
総合型選抜Ⅱ期	令和6年11月8日(金)~11月22日(金)消印有効	12月1日(日)	12月12日(木)
社会人選抜Ⅰ期	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	10月20日(日)	11月1日(金)
編入学選抜Ⅰ期(含短大指定校推薦)/社会人編入学選抜Ⅰ期	令和6年9月13日(金)~10月7日(月)消印有効	10月20日(日)	11月1日(金)
留学生選抜Ⅰ期/留学生編入学選抜Ⅰ期	令和6年11月8日(金)~11月22日(金)消印有効	12月1日(日)	12月12日(木)
個別資格審査	令和6年11月1日(金)~11月12日(火)必着	11月23日(土)	12月2日(月)

大学院(通学制)選抜(入試)日程

※密教学専攻、仏教学専攻

通学制	出願期間
大学院選抜Ⅰ期 修士課程(博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース) 博士後期課程	令和6年8月23日(金)~9月13日(金) 消印有効
試験日	合格発表
9月21日(土)	9月27日(金)



試験の詳細は
大学ホームページから>>



国際サンガフォーラムに 乾先生が参加

令和5年12月インド共和国ビハール州のブツガヤで開催された「国際サンガフォーラム（ISF）」に、本学から名誉教授の乾龍仁先生が参加しました。

フォーラムのテーマは「伝統と現代をつなぐ、今日の世界における仏教の教えについての対話」で、国際紛争の絶えない今日において、世界の仏教徒の交流の場を提供し、仏陀の教えの意義と仏教徒の役割を確認する意図があったようです。同フォーラムは20日から22日まで3日間にわたって開催され、世界から2000人を超える僧侶が一堂に会しました。23日は仏陀成道の地であるマハーボーデー寺院において世界平和祈禱会が行われました。主賓のダライラマ法王14世現下は、フォーラム開会式と平和祈禱会に出席され、仏陀の教えを基にした御垂辞を述べられました。

全体は9セッションに分けられ、各セッションの司会者と発表者合わせて16ヶ国52名によるスピーチが行われました。日本からは4名の僧侶がスピーカーとして参加し、乾先生は「21世紀における仏教の役割」というテーマで発表されました。



全国からの支援に感謝！ ふるさと応援寄付 私立学校助成交付金

高野山の学びの取り組みをふるさと納税を通して支援する「高野町ふるさと応援寄附私立学校助成交付金」が高野町から高野山学園に交付されました。

高野町のふるさと納税には、使途として幼稚園から中学校を支援できる項目があります。一方で私立学校に支援が行き届かない状況があることから、新たに使途として私立学校の支援を昨年から追加し、「高野町ふるさと応援寄附私立学校助成交付金」として支援する取り組みを始めています。昨年度この使途で集まった寄付金のうち、返礼品代などを除いた198万7000円が寄贈されました。

6月4日に本学高野山キャンパスで交付式が行われ、平野嘉也町長から今川泰伸理事長に目録が手渡されました。今川理事長は「かつては1000人を超える学生がいた時代があり、過疎や少子化の中で維持していくのは大変な問題です。学山の火を消すことなく、助成を学生のため、学園のために生かしていきたいと思っています」「平野町長は「人口が減少する中、多くの方の協力をいただいて町を活性化していきたい」と思っています。学園が元気になるよう、町としても頑張っていきたいです」と話していました。



高野山の新史料発見！ 根本大塔供養の実像が明らかに

本学の坂口太郎准教授を代表とする研究グループは、東京大学史料編纂所との共同研究の「重要文化財 西南院文書 全口巻の研究を進めています。その第9巻「元応二年高野山大塔供養記録」（以下、「大塔供養記録」）の翻刻と考察を兼ねた論文が、本年3月に『東京大学史料編纂所研究紀要』第34号で発表されました。

高野山西南院には、平安時代から江戸時代までの膨大な史料が伝わっています。1950年代から60年代にかけて行なわれた高野山文化財総合調査で、貴重な価値を帯びる古文書古典籍が西南院から多数発見され、その一部が1959年に重要文化財の指定を受けました。今回の第9巻「大塔供養記録」は、鎌倉時代末期の元応2年（1320）4月2日に行われた、高野山の根本大塔供養についての記録であり、法要の導師であった真光院禪助（東寺座主・長者）の動向がくわしく書かれています。他の巻は複数の古文書をまとめた古文書集ですが、第9巻は第10巻とともに、日記形式の記録である点が特徴的です。また、坂口准教授らの西南院調査では、第9巻に記された大塔供養についての指図（図面）も新たに発見されており、上記の論文にその図版が紹介されています。

「大塔供養記録」に見える根本大塔は、平安時代末期の久寿3年（1156）に再建された3代目の塔です。元応2年の供養は、その3度目の修造完了をうけて行われました。坂口准教授の考察で、3度目の大塔修造にあたって、高野山金剛峯寺が朝廷と鎌倉幕府から積極的な支援を受けていたことが明らかとなりました。当時の治天の君であった後宇多院は、真言密教に深く傾倒しており、弘法大師ゆかりの寺院を支援していました。特に高野山には厚い信仰を寄せ、高野山が大塔の修造事業に熱意を燃やしていることを知って、幕府に支援の了承を取り付け、また自身も土地を寄進したのです。

また、「大塔供養記録」からは、有名な後醍醐天皇（後宇多院の皇子）と高野山のつながりも見えてきます。供養の導師をつとめた東寺二長者の禪助は、元応2年3月29日に高野山を訪れ、御影堂に保管されていた重宝を拝観しました。その際に、禪助は後醍醐天皇の勅命により、飛行三鈷を収める函に勅封（天皇の命にもとづく封印）をしたと記録されています。後醍醐天皇は、のちに真言密教の数多くの宝物を勅封することで、密教を掌握しようとしていました。元応2年当時は、後醍醐の親政が始まる前でしたが、飛行三鈷に勅封したことは、たいへん興味深いものがあります。

ちなみに、坂口准教授の西南院調査で見つかった建築指図には、元応2年の大塔供養に際し、大塔内部の空間と供養時の出席者の座った位置が描かれています。図上では外周に20本、その内側に円形に12本、さらに内側に八角形に柱が並んでおり、これらの柱に厳重な結果があったと考えられています。同じ久寿3年再建の3代目大塔を描いた指図として、神奈川県立金沢文庫所蔵の指図があり、今回見つかった建築指図と合わせて、中世前期の大塔の構造や空間がより具体的にわかっていくとされています。

今回の2点の史料は、鎌倉時代後期における後宇多院後醍醐天皇父子による密教興隆、また中世密教寺院の空間構造、これらの研究にとつて、貴重な素材となるものと期待されます。



高野山大学 学長
添田 隆昭

順風と逆風

かつて、異常気象と言っていた状態が日常となった感のある今日この頃ですが、お変わりございませんか。

本年度の入学生は密教学科が25名で、内、寺院後継者は11名でした。一般家庭からの入学者の方が多い状態が続いているのですが、この人達に入学動機を聞くと、僧侶に憧れて、とか、修行がしたいからと言った答えが返ってきます。専修学院や尼僧学院、又真別処等で行をする場合は、単位認定の幅を広げて、卒業まで4年間を超える事が無いよう配慮しております。しかし、これらの道場は、年齢制限があり、多人数での行が困難な学生にはハードルが高いといった点があります。従いまして、本年度より、女子の学内加行を再開いたしました。春夏の長期休暇を利用し、在学中に加行を終えることができましたが、指導教員の負担が過重にならないようにしております。

社会人を対象としたオンライン、オンデマンドによります、密教文化コースは人気が高く、昨年は54名、本年は49名が入学し、全学的な収容定員充足率の改善に大きく貢献しており、本年度は80%を超えております。

教育学科は5名が入学し、2名が短大から編入学してきました。教員の残業代を含む給与の改善も進みませんし、採用試験日を前倒しし、一般企業に近づける等の施策も採られておりますが、小学校教員の職場環境が改善されない限り、募集の困難さは変わらないと思われまますので、昨秋の理事会において、入学定員の削減、幼保課程の中止、教員の削減、令和10年を以て高野山キャンパスへの統合等が決定されました。

順風と逆風の中を、教職員は、なんとか、前を向いて進もうとしておりますことをご理解下さいませ。

令和6年度春の叙勲 越智先生が受章

令和6年度春の叙勲で、本学名誉教授の越智淳仁先生が瑞宝小綬章を受章されました。

越智先生は昭和42年に高野山大学文学部密教学科を卒業。昭和49年に同大学院文学研究科博士後期課程を単位取得退学した後、同年に本学文学部助手に就任しました。その後講師、助教授を経て平成4年に教授に就任し、平成22年に定年を迎えるまで、36年間にわたって密教の教育研究に努め、同年本学の名誉教授となりました。またインド北部のラダック地方や中国チベット自治区、バングラデシュで本学が行った海外調査にも積極的に参画されました。

研究分野では「大日経」や「金剛頂経」の研究に従事し、平成14年の学位請求論文「法身思想の展開と密教」は平成21年に『法身思想の展開と密教儀礼』として法蔵館より出版されています。なお先生は本学における第9号の博士（乙）学位取得者です。

この他、「密教瞑想から読む般若心経―空海・般若心経秘鍵と成就法の世界―」（大法輪閣）、「図説マンガの基礎知識―密教宇宙の構造と儀礼―」（大法輪閣）、「密教概論―空海の教えとそのルーツ―」（法蔵館）などの書籍を出版し、真言密教や密教美術に関する啓蒙にも努めました。

学会活動では日本印度学仏教学会評議員、日本チベット学会委員、日本密教学会理事等を務めたほか、大学教授として教育の振興と真言宗僧侶の育成に尽力したとして平成23年に教育功労賞（高野山真言宗）を、また密教チベット仏教に関する研究業績によって平成19年に密教学芸賞（真言宗各派総大本山会）を受賞されています。

フアドナヴィス副首相に名誉博士号を授与

令和5年12月26日、インド共和国マハーラーシュトラ州のムンバイ大学において、同州副首相のデヴェンドラフアドナヴィス氏に本学初の「名誉博士号（第二号）」を授与致しました。

近年、本学は和歌山県の支援を受けてインドとの友好関係を深めてきました。その最初は平成27年9月にマハーラーシュトラ州から、同州出身の近代インドの偉人で「インド憲法の父」と呼ばれたアンベードカル博士の銅像が、和歌山県を通じて高野山大学に寄贈されたことに始まります。これを英断されたのが、当時同州首相であったフアドナヴィス氏です。氏は日印関係を重視して度々来日され、昨年和歌山に来県した際には本学を訪問され、添田学長と懇談されました。成長著しい現代インドにおける次代を担う政治家の一人でもあります。

授与式には本学から乾龍仁名誉教授が学長に代わって派遣されました。また日本側から在ムンバイ日本国総領事の深堀裕賢氏、和歌山県国際課々長の山下善夫氏が出席され、それぞれ祝辞を述べられました。

子どもの「学びに向かう力」を育てる体験学習



文学部教育学科特任 教授
今西 幸蔵

筆者が、「地球市民として社会に貢献する」青少年の育成を研究課題の一つとして取り上げて五十年になります。高校教員であった頃、当時の大阪府科学教育センター（現府教育センター）から青年期の若者の意識や行動について分析するという研究依頼があったことが契機であり、その後の一九八五年には国際青年年があり、また、国立教育政策研究所や国立青少年教育振興機構などで研究活動を行い、子どもの体験活動に研究を焦点化してまいりました。

最近の研究内容について説明しますと、小学生を中心に中学生も対象に、大阪市なども青少年局や大阪読売新聞社などが、実行委員会を組織し、子ども夢・創造プロジェクト（通称夢プロジェクト）と称する体験活動を実施しています。

非日常体験に重点を置いたさまざまなプログラムを提供し、二〇二三年度においては、科学実験、ゲームプログラミング、新聞記者、アナウンサー、ダンサー、ユース番組制作、アニメ声優やレコーディングなどの体験講座を実施しました。定員は二百名（例年は三百名であった）が二倍以上の申し込みがありました。研究について説明すると、目的は体験活動に参加した子どもが、そのことによって、どのような力が、どれくらい伸びたのかを測定調査することです。すなわち体験活動が子どもの意識・行動に変容を与えた経過や具体的な資質・能力の変容度を測定します。

依頼された筆者は、体験活動の効果や、量的調査と質的調査の両面から実施しました。統計調査の手法を導入して、非認知的領域

の学習における変容に関わるエビデンスを数値で示した点で画期的な研究であると考えています。具体的手法は、体験活動の前後において、活動に参加した子どもと保護者を対象にした調査紙調査の実施です。詳しい結果の一部を示した報告を高野山大学論叢第五十七巻で掲載していただいているので参照してください。

十年間の研究の結果として得られた知見は以下のとおりです。体験活動の成果として変容が認められる資質・能力に、意図力・働きかけ力、考え抜く力、課題発見力、発信力、傾聴力、状況把握力があり、特に「意図力」の向上が著しい。一方で、成長が評価できない力と「計画力」「きまりやルールを守る」ことができる「挨拶ができる」などがあり、とりわけ「異質性の受容」といった点で課題があることが判明しています。

二〇一七年に改訂された学習指導要領は、いわゆる三層構造論によって構成されています。知識や技能といった基礎的学力の上に、思考力・判断力・表現力があり、これらの「学力」と呼ばれる認知的能力の上に、「学びに向かう力」「人間性」といった非認知的能力の育成を求め、全体として「資質・能力」の育成が目標となっています。筆者の研究の結論からすると、子どもの体験活動は「学びに向かう力」の育成が効果的であると考えます。主体的に学び続けて、自らの能力を引き出すという意図力が確実に育成されます。また自分なりに試行錯誤し、新たな価値を生み出していることとする働きかけ力や課題発見力が身に付きます。

一方、課題は、多様な他者と協働することや社会的スキルの獲得と人間性をどう育てるのかといった点です。こうした課題の根底にあるのは正しい倫理観の育成だと考えます。心の教育、道徳、宗教教育の重要性を再認識する必要があります。

密教学科 / 教員採用説明会 地域体験

【教員採用試験説明会 人事協議会が解説】

教育学科では4月17日に「教員採用試験説明会」を行いました。この日は堺市の教育委員会と大阪府豊能地区の教職員人事協議会から、それぞれの自治体の魅力や取り組み、採用試験のフローやポイントなどについて直接ご説明いただきました。教員採用試験の受験を希望する学生が参加し、熱心に教育委員会の方のお話しに耳を傾けていました。

また、今回説明会を実施していただいた自治体では、大学3年生から教員採用試験の一部（主に二次試験）を受験できるようにしたこと、4年生だけでなく関心の高い3年生も参加しました。採用を行う自治体に直接質問もでき、学生にとって大変有意義な時間となりました。

教職支援センターでは教員採用試験説明会の実施をはじめ、採用に関わる各種の広報活動、採用試験対策講座（WEBでの筆記試験と面接対策）の実施など、試験合格にむけて熱意をもってサポートしています。



【地域体験が今年も始まりました】

地域の様々な団体のご協力のもと、学生が多様な体験をさせていただく「地域体験」。教育学科の特色あるカリキュラムの一つが今年も始まっています。

今回取り上げるのは乗馬クラブアクレインさんでの「馬育体験」です。この日は学生たちが初めての乗馬体験に挑戦しました。乗馬マシンのシミュレーションでは余裕の表情で乗りこなしていた学生たちですが、本物の馬の前では緊張した面持ち。はじめのうちは緊張でうまく力を抜けなかった学生も、しばらく乗馬しているとコツをつかんできたのか笑顔がこぼれるようになりました。

学生らは「馬とは言葉で会話できないけれど、馬の目や耳、動きなどから感情を読み取ることができた」「ありがたい気持ちが伝わった気がしてうれしい」などの感想を話していました。



弘法大師研究における『三教指帰』の真偽問題



密教学科 特任講師
大柴 清圓

筆者は約三十年前に高野山専修学院を卒業し、高野山大学院修士課程に進学して以来、弘法大師研究に従事してきました。凡そ、弘法大師空海（以下、「空海大師」と呼称する）を研究しようとするとき、その研究範囲は多岐かつ広範囲に亘ります。それらをまとめれば、大要として以下ようになります。

- ①空海大師の生涯・生涯地・学生時代・出家受戒（空白の七年）・入唐留学・大同年間・醍醐天皇や伝教大師との交流・高野山開創・神護寺・東寺・長年間・晩年など。
 - ②空海大師の思想・「即身義」・「声字義」・「一字義」・「二教論」・「秘藏宝鑰」・「十住心論」・般若心経秘鍵・開題類など。
 - ③空海大師の書・「聲響指帰」・「風信帖」・「忽披帖」・「忽惠帖」・「高雄灌頂曆名」・和韻詩「益田池碑文」など。
 - ④空海大師著作の真偽問題・『三教指帰』・『御遺告』・『御身印縁起』・『惠果和尚の碑文』・『高野四至敬白文』など。
 - ⑤空海大師の請来物・「御請来目録」・請来経典群・録外請来物・法具など。
- 以上の事項の解明には、歴史学・思想学・漢文学・書誌学・文献学・目録学・写本学・言語学・民俗学・書法書論・事相・悉曇などの分野における研究が必要となります。筆者は如上の研究分野の課題に対して、積年の研究を通して多くの解答を示

してきました。その中で、『三教指帰』の真偽問題は修論にて扱ったテーマです。『三教指帰』が偽作となってしまうと、その序文に記されているかの虚空蔵求聞持法を空海大師が修したことも嘘となってしまいます。このことは四国霊場の遍路にも悪影響を及ぼしかねないことです。『三教指帰』の真偽問題はすでに決着しており、『三教指帰』が空海大師の真作であることは疑いのないところではあります。『三教指帰』の真偽問題の顛末はアマゾンから販売の拙著『聲響指帰と三教指帰―空海大師真作の証明―』に譲る。偽作説は『三教指帰』のテキストとして数多くの誤字脱字が存在する建長本（高野版）を活字化した『日本古典文学大系』本を使用し、その誤字脱字を意図的に偽作にしようとしています。そのことを知った筆者は、『三教指帰』の校訂本を作る必要性を痛感しました。幸いにも、太田次男氏・築島裕氏・佐藤義寛氏などの優れた古写本研究によって、『三教指帰』は新たに校訂本を作成し得る段階です。そこで、筆者は令和四・五年度の中野義照博士奨学金奨励研究員として『三教指帰』の校訂研究に従事し、先日校訂本を作成し終えました。その結果、空海大師が『聲響指帰』から『三教指帰』へ改変した目的は(1)文字、(2)音韻、(3)意味、(4)訂正、(5)対偶、(6)削除、の六つに分類され、合計して66箇所において改変が認められました。(1)文字上の改変箇所は俗字・異体字の捉え方扱い方によってその数が上下に変動しますが、他の五つに関しては、その改変箇所と改変目的をほぼ特定することができました。当該校訂本が『三教指帰』のより正確な内容理解を促し、かつ更なるいたづらな偽作説を提示させない抑止力となることを期するものです。

宗教教育行事

【春季集団加行】

春季休業期間中、男子は真別処円通律寺において2月14日から3月27日まで、女子は高野山大学大菩提院道場において2月29日から4月1日まで春季集団加行を行いました。今季の行者4名（3回生1名、4回生2名、別科1名）は修行に「意専心しました。」

【集団得度式】

高野山学園の集団得度式が5月27日、総本山金剛峯寺において執り行われました。長谷部真道管長現下に戒師をお務めいただき、受者は本山内局、大学、高校の職員らに見守られながら剃髪、如法衣の授与の後、戒師より戒を授かり出家しました。本学からは13名（1回生8名、2回生3名、3回生1名、4回生1名）が得度を受けました。

【受戒】

6月3日から6月5日の間、真別処円通律寺において受戒が開壇されました。宮田永明法印御房に戒師をお務めいただき、受者たちは戒を授かりました。本学からは14名（1回生7名、2回生3名、3回生2名、4回生2名）が入壇いたしました。

新任教員紹介



密教学科 特任講師
岡田 英作



密教学科 特任講師
徐 東軍



密教学科 特任講師
徳重 弘志

令和6年度役職紹介

- 高野山大学
- 学 長 添田 隆昭
 - 副学長 松長 潤慶
 - 副学長 吉田 明史
 - 大学院委員長 土居 夏樹
 - 研究所長 佐藤 隆彦
 - 図書館長 南 昌宏
- 学校法人 高野山学園
- 法人本部長 事務局長 山口 文章
 - 顧問 乾 龍仁
 - 芝田 啓治
 - 岡本 正志

高野山大学 オープンキャンパス

密教学科オープンキャンパス

日時:8月18日(日)13:00~15:00
(12:00受付開始)
場所:高野山キャンパス 第三会議室

教育学科オープンキャンパス

日時:8月3日(土)、8月22日(木)、23日(金)
場所:河内長野キャンパス
(3日はオンラインで開催)



プログラム、申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください。

3月					2月					1月					4月					3月					2月					1月																							
25	23	20	16	15	9	7	4	26	24	23	21	20	16	14	13	12	11	10	3	2	19	14	10	9	8	1	25	23	20	16	15	9	7	4	26	24	23	21	20	16	14	13	12	11	10	3	2	19	14	10	9	8	1
月	土	水	土	金	土	木	月	月	土	金	水	火	金	水	火	月	土	日	土	金	金	日	水	火	月	日	月	土	水	土	金	土	木	月	月	土	金	水	火	金	水	火	月	土	日	土	金	金	日	水	火	月	日
卒業論文提出期限					後期授業終了					編入学Ⅱ期・社会人編入学Ⅱ期(密教)					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日																		
卒業論文提出期限					後期授業終了					編入学Ⅱ期・社会人編入学Ⅱ期(密教)					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日					入学式・導入研修(高野山)5日																		

日録 令和6年1月〜6月

令和5年度学位記授与式・令和6年度入学式



3月15日に令和5年度の学位記授与式を挙行了しました。今年度は卒業生の保護者からも出席し、添田学長が卒業生一人ひとりに学位記を渡しました。また来賓には総本山金剛峯寺座主高野山真言宗管長の長谷部真道殿下、高野山真言宗務総長の今川泰伸学園理事長にお越しいただきました。

添田学長は「高野山で勉強した」ということを抱いて、自分の誇りとするようにこれからの人生を生きていきたいと思います」とあいさつしました。

卒業生を代表して、新見百代さんは「高野山の命を生かす学びと経験を人生の糧として、今後は人に寄り添い、自己を律し、利他を実践し、邁進してまいります。」と答辞を述べました。令和5年度の卒業生は密教学科22名、人間学科14名、大学院修士課程1名、大学院通信教育課程8名でした。

令和6年度入学式は4月3日に挙行されました。新入生を代表して、密教学科の齋藤翔成さんが「弘法大師の総持種智の教育理念を糧として人格の陶冶と学問の探求に努力することを誓います」と宣誓しました。本年度の新入生は密教学科25名、教育学科5名、密教学科3年次・社会人編入学53名、教育学科3年次編入学2名、大学院修士課程3名、大学院通信教育課程3名となりました。

訃報 ニチャン・リンポチェ氏

チベット仏教ニマ派の高僧であり、高野山大学でも講師を務められたニチャン・リンポチェが2月14日に逝去されました。

リンポチェは1935年にチベット南西部のキロン村に生まれました。1942年にゲルク派の三大寺院のツェンポ寺に入門し、その後、ニマ派の尼僧から読み書きと顕教・密教を学び、その間に化身活仏(転生ラゴ)と認定されました。ニマチャラ僧院大学などでインドの仏教哲学を中心に学び、その後同大学の教師を務めました。1959年のチベット動乱に伴いインドに亡命した後はチベット難民学校の副校長、ヴァラナシ・サンスクリット大学の教授を務めていました。

日本にはダライラマ法王の要請で1974年に訪れ、本学の講師として就任されました。講義では「チベット語会話」の授業のほか、当時の中川善教学長の依頼によるチベット蔵外文献の蒐集にもあたり、7年ほど在籍されました。

その後は東京で弟子をはじめ関係者の支援によりニマ派の密教を中心に教えを講義され、数年前に福岡に滞在。その後体調を崩し熊本の病院に入院し、逝去されました。享年90歳でした。本学をはじめ日本各地で長年にわたり伝授を続けてこられたニチャン・リンポチェを悼み、ご冥福をお祈りいたします。

寄付金御礼

- (2023年11月〜6月) *順不同
- 浦川 良重様 五万円
 - 加藤 正明様 十万円
 - 後藤 祥子様 三万円
 - 高野山住職会様 百万円・百万円
 - 高野山大学同窓会様 三十万円
 - 百二十七万四千元
 - 紺田 昌隆様 三万円
 - 佐伯 慈海様 五十万円
 - 鐘ヶ江 尊明様 十万円

メディア掲載

2024年4月17日(水)
NHK「歴史探偵」平安のスーパースター 空海
2024年5月9日(木)
NHK「エイトコア」アートな僧侶 空海に癒やされて〜高野山と奈良 空海展〜

メールアドレスの登録にご協力ください

高野山大学では、同窓会員や卒業生の皆様にメールアドレスの登録をお願いいたします。登録いただいた皆様には、入試やオープンキャンパスをはじめとした学内行事の情報をお送りいたします。

メールは下記のQRコードから作成、送信ください。

※いただいた内容は大学から皆様への情報発信にのみ使用させていただきます。



